

令和7年度 学校経営方針

大田区立大森第六中学校長 菅野 哲郎

I 教育目標

東京都教育委員会教育目標 - 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間 - 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間 - 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間	大森第六中学校教育目標 - 気品のある生徒の育成 - 実力のある生徒の育成 - 健康のすぐれた生徒の育成	大田区の教育がめざすこども像 - 意欲をもって自ら学び、考え、主体的に行動するこども - 多様性を尊重し、自分や人を大切に生きていくこども - 地域とつながり、社会の一員として貢献しようとするこども - 自らの可能性を伸ばし、ともに未来を創り出すこども
	未来を創造する力 - これからの生涯に必要な知識・技能を身につけようとする意欲 - 多種多様な考えを受け入れ自らの世界を広げる力 - 様々な体験を通して発想力・創造力を養い行動する力	

II 本校の特色

本校は平成23年1月11日にユネスコスクールに加盟し、「持続可能な社会の担い手を育む教育（ESD：Education for Sustainable Development）」を推進している。 この地球で生きていくことを困難にするような問題について、考え、立ち向かい解決するため、「人格の発達や自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと」、「他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、『かかわり』『つながり』を尊重できる個人を育むこと」という二つの観点を重視しながら、持続可能な社会の担い手を育む教育を推進している。 さらに、ユネスコは、平成27年度に国連で採用された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals以降 SDGs）を2030年までに達成し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにする具体的な行動を呼びかけている。 本校では、教育課程に新たな教科「未来創造科」として SDGs 達成に向けたカリキュラム・デザインを位置づけることを目標とし、環境・食糧・自然災害・平和など多くの課題を解決するための全教科・領域における教育方法の工夫、ホールスクール・アプローチ（学校全体にESDを浸透させ、国際交流を始めとして、あらゆる機関とともにESDを展開させていく）、シビック・アクションの研究と実践を進める。
--

III 学校経営の理念

- 生徒にとってかけがえのない中学校生活を謳歌させる。そのために、①友との出会い②先生との出会い③打ち込むものとの出会い④感動との出会い等を大切にする。その中で、生徒一人ひとりが自ら考え、判断し、行動することにより、その結果についても真摯に受け止め、成長することを支援する。これらにより、「学校が楽しい」「入学して良かった」と生徒が真に思える大森第六中学校を創っていく。
- 保護者・地域と一体となって、生徒に豊かな学びの場や多くの体験の機会を提供し、学習・生活の向上意欲を高めるとともに、将来の望ましい生き方を見出せる学校を目指す。
- 本校はこれまでESDを推進する中で、国内外から多くの視察を受けている。今後も研究を推進し、その成果を広めて、地域に愛され、誇りとされる六中であり続けられるよう、「IV 本校教育を推進する11の鍵」の実践を進め、全ての生徒に質の高い教育を提供し、生徒・保護者・地域の信託に応えるという公立学校の使命を全うする。
- サービスの厳正に努めつつ、教職員が組織的に教育課題に取り組み、生徒・保護者・地域の信託に応える。
- 生徒個々に運動・食育・睡眠等、基本的生活習慣の確立を推進し、かつ、感染症拡大防止を図り、SDGsの3に示された「すべての人に健康と福祉を」の意識を高める。

IV 本校教育を推進する11の鍵

- 健全育成**
 - 利他の精神を育み、差別、偏見、いじめ、暴力を許さない安心・安全な学校づくりに努める。
 - 思いやりの心、助け合いの心を育み、規律と落ち着きのある学校づくりに努める。
 - 挨拶、正しい言葉遣いを徹底し、気品のある学校づくりに努める。
 - WEBQUや学校生活調査などの結果を活用した面談等により、生徒理解を基にした生徒指導に努める。
 - 問題行動への指導は人権尊重の精神の下で冷静に行い、自ら過ちを認めるように導き賞賛する。
 - 討論型授業を推進し、生徒が主体的に考え判断する力を育成し、自己調整力を身に付けさせる。

2. 学力向上

- ユニバーサルデザインにより環境を整え、ICTを積極的に活用し個別最適化された学習を提供する。
- 定期考査前の補習や青竹クラブへの積極的な参加を促す。
- 朝読書を始めとして、各教科においても読書学習司書と連携し、読書習慣を身に付けさせる。
- 学力調査や生徒による授業評価の結果を分析し、知的に楽しいと感じられるよう授業改善に努める。

3. 豊かな人間性

- 「特別の教科道徳」の授業において、考え、議論する展開を充実させ、道徳的判断力を育成する。
- 運動会、文化祭等の学校行事、部活動、体験活動を生徒が主体となる活動とし、自己肯定感を育む。
- 生徒会活動、委員会活動、係活動等、学級会活動を生徒主体の活動とし、教育の持続可能性を高める。

4. 進路指導・キャリア教育

- キャリア・パスポートの活用を通して、将来の生き方を考え、適切な進路を選択する能力を育てる。
- 職場体験の事前、事後指導を充実させ、望ましい勤労観、職業観を育むとともに、生徒が自己の適性を探究し、職業を通して社会に貢献しようとする意欲を培う。
- 1年時より進学に向けて計画的に指導し、目的意識をもって志望校を選択させ、志望校合格に導く。

5. 環境教育

- 率先垂範により、生徒の環境保全の意識を高め、生徒が進んで美化活動に取り組む態度を育てる。
- ホタルの飼育、水性植物筏の設置等による水質浄化プロジェクトを応援し、地域貢献の意識を培う。
- 洗足池清掃、ミミズコンポスト、ゴーヤカーテンを始めとして、生徒のボランティア団体「農援隊」の活動を広げ、地域の環境美化活動への参加を促す。

6. 防災教育

- 1、2学年では、社会科見学等を通して、防災についての学習・体験を行い、防災意識を高める。
- 3学年では、修学旅行や防災訓練、救命技能認定証の取得等により、自助・共助の意識と態度を培う。

7. 地域社会との連携

- 青少年対策千束・雪谷地区委員会、洗足風致協会、学校防災活動拠点、大岡山駅前北口商店会、自治会、大田区都市基盤整備部地域基盤整備第三課、東京科学大学、東京都公園協会、NPO花とみどりのまちづくり等との連携・協働により、他者と協働しながら未来を創り出し、課題を解決する力を培う。
- 職場体験、春宵の響き、ガーデンパーティー、千束・雪谷スポーツ祭、商店会の行事参加、ホタルの飼育と放流、大岡山駅前花壇整備等により、地域との連携・協働を推進する。
- 学校運営協議会により学校運営への理解と協力を得るとともに、地域学校協働本部の協力の下、教育環境と教育活動の充実を図る。
- 各教科等で外部の専門家等を講師として活用し、教育内容の充実を図る。

8. 小中一貫教育

- 学区域の児童が期待をもって本校に進学できるように六中学区の小中一貫教育を推進する。
- 小中合同で9年間を通した指導方法の検討を行い、学びの充実とSDGsの取組の連携を図る。
- 関係小学校の4年生以上の保護者に本校の学校行事を案内し、本校の教育活動の周知と理解を図る。
- 小・中の情報連携により、円滑な接続を推進し、不登校や問題行動の未然防止を図る。

9. ユネスコスクール

- 本校の全ての教育活動をESD、SDGsと関連付け、生徒を持続可能な社会の担い手として育む。
- SDGsへの取組、「主体的・対話的で深い学び」を具現化するエッセンシャル・クエスチョン、六中式指導過程、六中ルーブリック、SDGsカレンダーの実践を継承し、教育効果を検証する。

10. 生徒・保護者・地域の信託に応える

- サービスの厳正と研究・修養に努め、指導方法の工夫・改善を進める。
- 校務の合理化を促進し、効率的な職務遂行に努める。
- 組織的かつ計画的なOJTにより、若手の育成を着実に行う。
- 研究指定校を受け、シビック・アクションなど「未来創造科」の研究を区内外に広める。
- 文書決裁による適切な事案決定を行う。
- コスト意識をもって校内予算の適正運用に努める。
- 学校自己評価の結果をもとに、学校運営の改善に努める。

11. アイデアの結集

- 「生徒が入学して良かったと思える学校づくり」を目指し、自由闊達なアイデアで変革を図る。